校地縁（こうじえん）

「校地縁」　～「学校と地域・家庭の縁をつなぐ」ために～

開進第一中学校だより
令和５年度　第１号
令和５年４月１２日発行

令和５年度に期待すること

校長　小林　勝巳

春の暖かな風が感じられる頃となりました。

保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。２，３年生の皆さん、進級おめでとうございます。令和５年練馬区立開進第一中学校は、全校生徒４２８名で新たなスタートを切ることができました。今年度は、感染症対策も緩和され、昨年度以上にできることが多くなると予想されます。今できることをしっかりと取り組んでいきましょう。

令和４年度を振り返ると、感染症対策をとりながら様々な行事を実施し、中学校生活が少しずつ元に戻りつつある状況でした。運動会、合唱祭、修学旅行、イングリッシュキャンプ、スキー移動教室、修学旅行など、在籍していた生徒たちは、全て初めての体験。特に卒業生は、「最初で最後の」という言葉通り、それぞれの行事に対して下級生の見本となる取り組みを示してくれました。

令和５年度のスタート。今年度は、授業では今までできなかったことができるようになり、行事ではコロナ流行前の形に戻すことができるかもしれません。

しかし、「今までのように」「数年前に戻して」のように言葉で言うことは簡単ですが、新２，３年生は、できなかった時期、感染症対策を講じた縮小版での実施しか経験していません。また、感染症対策前の行事を知る教職員も少なくなっている状態です。

ここからが再スタートです。昨年度は「どうすればできるのか」を中心に考えてきましたが、今年度は、「元の形に近づけるにはどうすれば良いのか」「今の開一中に必要なものは何か」を明確にし、取り組んでいくことが必要です。中学校の授業や行事は、先生方の力だけでできるものではありません。令和５年度に開一中に在籍している生徒の力、保護者の皆様、地域の方々のご理解・ご協力があってこそ、できあがるものです。

生徒のみなさんは新年度のスタートで、どんなことを楽しみにしていますか？中学校では、授業だけでなく、行事や委員会、部活動など多くのことが待っています。ただ楽しむだけでなく、何事もコツコツと土台を積み上げ、創りあげていくことが大切です。その土台作りが君たちの大きな力となるのです。先生方の指示を受けてやることもあれば、自分たちで考えていかなければならないこともあります。全てが上手くいくことはまずないといって良いでしょう。必ず「問題」や「壁」にぶつかり、それをどうすれば解決できるのか、どうすれば乗り越えられるのか。一つ一つ解決していくことが、みなさんを大きく成長させてくれるはずです。

今できること、今しかできないことを大切に、一年間を過ごしましょう。